

看護学科 専門教育科目 概要（令和4年度第1学年適用）

	科目名	概要
2年前期	公衆衛生学 I	この科目は、公衆衛生学・疫学の幅広い知識を習得する。わが国の感染症・学校保健・母子保健・人口統計・国際保健に関し、公衆衛生的・疫学的視点から説明できることを目標とする。
	人体構造機能学演習	人体構造機能学 I～IV とともに、これから学ぶ病理学、病態学、看護学などの基礎を支える科目である。人体構造機能学で学んだ知識を演習および実習によってさらに深める。
	生化学	生化学は、生命現象を分子レベルで理解する教科である。人体の構造と機能は、目に見えない生体分子の生化学反応によって営まれており、あらゆる病気の背景には、分子レベルの異常が存在する。生化学の学習を通して医療の分子の基盤を理解する。
	薬理学	本科目は薬物が生体に対して与える影響を薬理学の観点から学修し、これまでに修得した基礎医学の知識と臨床との関連をどのように結びつけ応用するのかを考察する。看護師は患者に接する機会が最も多く、薬物の効果や副作用、投与する際の注意点などを正しく理解し、薬物療法の有効性を十分に引き出すとともに、医療事故の防止と患者安全に寄与することが求められる。
	病態・疾患学	病理学と共に病気への理解を深め、看護学の基礎を支える科目の1つである。循環器系、呼吸器系、消化器系、神経系など各分野別の疾患に関する講義を中心にすすめる。
	栄養学	栄養に関する知識を習得、看護業務にとり栄養学を学ぶ意義や大切さを知る。栄養学・食品学・代謝・消化・吸収などの基礎知識と最新の臨床栄養・栄養ケアマネジメントなどを学ぶ。および栄養問題に対する対処法を学ぶ。
	成人病態と臨床実践 I	1年次の人体機能学、人体構造学等、など既習の知識を活用し、成人期に特徴的な生活習慣の改善により予防可能な非感染性疾患（NCD）や長期療養が必要な慢性疾患の病態と症状、検査と診断、代表的治療および看護援助について学ぶ。
	看護技術各論 I	対象者のハイレベルのウェルネスを維持、促進、回復するための看護学的方略を理解し、看護過程の概念および基本的ニーズを充足する援助方法について学修する。
	看護技術演習 I	看護技術各論 I で学んだ内容に関連して、看護過程の概念をもとに基本的ニーズを充足する基礎看護技術を習得するための演習を行う。
	地域在宅看護学	地域で生活する人々とその家族を理解し、生活と健康を守る支援のあり方と看護職の役割を学ぶ。具体的には、①地域在宅看護の歴史、理念、社会情勢との関連、②対象者のニーズに沿った支援のための多様な生活と健康、③地域在宅看護を展開・発展させる看護職の役割の理解と活動領域、法的基盤、地域包括ケアについて理解を深める。
	がん看護学	がん経験者や家族への看護実践に必要な主要な知識について学びながら、人ががんとともに生きるということの意味と看護の役割について考察する。
	老年看護学	老年期を生きることの意味と価値について考えると共に、加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化の特徴をふまえた看護やエンドオブライフ・ケアについて理解を深め、高齢者と家族に対して多職種と協働しながら看護活動を展開・創発するために必要な知識とケアの視点を学ぶ。
母性看護学	女性のライフサイクルにおける性と生殖の側面からみた健康課題に対して、多様な価値観を考慮した看護のための学術的・実践的能力について考える視点を学ぶ。	
2年後期	保健医療福祉制度と看護	看護職としてライフサイクルと生活を重視した全人的支援に必要な制度を理解するため、また、保健医療福祉現場での実習にあたり実習先の制度と機能を正しく理解して行動できるよう、さらに将来的に看護職としての自己を護り安全に仕事を継続するために、保健医療福祉制度の基本を理解する。
	成人病態と臨床実践 II	手術を受ける患者への生態侵襲とその回復過程、手術や麻酔に伴う合併症、周手術期にある患者の身体的・心理的特徴を学ぶ。また、外科治療の対象となる代表的疾患とその手術術式や合併症、および術前・術中・術後の病態生理と看護援助について学ぶ。
	成人病態と臨床実践 III	成人病態と臨床実践 II で取り上げた以外の外科治療の対象となる疾患とその手術術式や合併症、および術前・術中・術後の病態生理と看護援助について学ぶ。
	老年病態と看護	高齢者の生理的老化と病的老化をふまえて、老年期に特徴的な疾患の病態生理・診断基準・治療および生活機能への影響について学んだ上で、健康障害・生活障害をもつ高齢者のアセスメントとケアについて考えることができる。
	小児病態と看護	小児医療・小児保健の実際と今後の課題および子どもに特有な病態・症状・治療に関する基本的知識を系統的に学ぶ。さらに、その基本的知識に基づいた小児看護のあり方を考える。
	母性病態と看護	本講義では、母性看護学の講義を基盤に、成熟期および新生児期にある人々の特徴とその対象の看護実践のための基本的知識を学修する。
	精神病態と看護	生活に大きな影響をもたらす代表的な精神障害及び罹患率の高い精神疾患について、診断基準や病態生理、治療方法や回復過程について理解し、回復過程を支援する看護の方法について学ぶ。

看護学科 専門教育科目 概要（令和4年度第1学年適用）

	科目名	概要
2年後期	リハビリテーション法	リハビリテーションの理念を学ぶ。また、身体的リハビリテーション、精神的リハビリテーションおよび地域リハビリテーションにおける代表的な疾患と機能障害の考え方、およびアプローチ方法について学ぶ。また、講義全体を通して看護師とリハビリテーション専門職の連携のあり方を考える。
	看護技術各論Ⅱ	看護技術各論Ⅰに引き続き、対象者のハイレベルのウェルネスを維持、促進、回復するための看護学的方略を理解し、看護過程の概念および基本的ニーズを充足する援助方法について学修する。
	看護技術演習Ⅱ	看護技術各論Ⅱで学習した内容に関連して、看護過程の概念をもとに基本的ニーズを充足する基礎看護技術を習得するための演習を行う。
	在宅看護学各論	疾患を抱えながら在宅で生活する療養者とその家族への援助技術・方法を学ぶ。
	在宅看護学演習Ⅰ	在宅療養者と家族を単位とした援助を理解し、暮らしの場における援助の展開方法およびコミュニケーション技術、医療技術、生活援助技術を体験的に学ぶ。
	ヘルスプロモーション論	人々の健康を支えるための国際的な理念であるヘルスプロモーションの考え方とわが国の健康関連施策を理解し、個人及び環境へのアプローチにより健康を保持増進する方法を具体的に学ぶ。
	セルフマネジメント支援論	セルフマネジメントのための主要概念や関連する理論を学び、病と共に生きる対象者が治療・社会生活・自己の感情を含めマネジメントする方法を身につけるための支援について学ぶ。また、代表的な疾患の病態生理や治療の知識を活かし、具体的なセルフマネジメント支援について学ぶ。
	小児看護学	成長・発達過程にある子どもの特徴、家族および環境が子どもに与える影響を理解するとともに、子どもと家族を対象とした看護実践の基盤となる知識と技術を学ぶ。
	精神看護学	人間のこころの健康と社会、こころの発達について学び、精神障害のある人々についての理解とともに看護の基本的考え方や態度について理解を深める。また、精神障害に関する疾病観や患者観の変遷を歴史的背景から展望し、彼らを取り巻く社会の現状や課題を学び、看護の役割と機能を学ぶ。
	キャリア開発論Ⅱ	キャリア開発論ⅠⅡを通して、将来社会で自律した看護専門職としてどのようにキャリアを歩もうとするのか、キャリアビジョンの明確化を目指す。そのために、キャリアビジョンの実現に向けたキャリアデザインを行う際の基盤となる知識および必要な方法を理解する。また、専門職業人としての自律と自覚について検討し、理解を深める。
看護実践基盤実習	入院患者を受け持ち、対象者に対する看護を体験しながら看護実践のあり方を学ぶ。	
3年前期	看護倫理	変化し続ける社会環境の中で看護師の倫理的役割をディスカッションし、看護における倫理的課題と専門職としての個人の責務を理解できることを目的としている。
	在宅看護学演習Ⅱ	在宅療養者とその家族を単位とした継続看護マネジメントの基本的な考え方・方法を学ぶ。事例を基に、療養者と家族の健康と生活に関する意思決定を支援する看護の役割、病院と生活の場とを移動する療養者の入退院支援・退院調整、在宅療養の場における看護を体験的に学ぶ。
	クリティカルケア論	成人病態と臨床実践の学びを発展させ、救命救急センターやICUなどに入室している生命危機状態にある患者や家族への援助を学ぶ。また、重症患者の特徴的病態や症状、災害発生時の初期医療対応や急変時対応の基本について学ぶ。
	成人看護学演習Ⅰ	周手術期患者の全身状態を理解し、看護援助を考えるためのフィジカルアセスメントについて実践を通して学ぶ。さらに、回復に向けた具体的な援助方法をロールプレイングやシミュレーションを通して実践的に学ぶ。
	成人看護学演習Ⅱ	慢性的な健康問題をもつ成人期の患者と家族の療養支援について、セルフケアの維持・促進を目指した看護過程の考え方を基盤としてその必要性を導くとともに、セルフマネジメント支援や看護について演習を通して実践的に学ぶ。
	老年看護学演習	老年看護学演習は、「老年看護学」「老年病態論」で学んだ知識をふまえ、事例を使った看護過程の展開や技術演習、ディスカッションを積み重ねながら、高齢者の生活に必要なケアの考え方や支援方法を学ぶ。
	小児看護学演習	子どもの成長発達および特徴的な疾患の理解に基づき、疾患や治療によって起こる子どもと家族の心身および社会的影響を明らかにする。疾患を有した子どもとその家族に看護援助を提供するための基本的視点を学ぶ科目である。
	母性看護学演習	母性看護学演習は、2年次の母性看護学や母性病態論で学んだ知識を活用し、周産期母子事例の看護展開と母性看護実践に必要な実践的能力を身につけるために学ぶ。この学びは、母性看護学実習で対象者のニーズに対して、適切な判断と解決できる実践的能力のための専門的な基礎知識、および技術である。
	精神看護学演習	本科目は、精神障害のある人々の生活を支えるために必要な看護実践の展開方法を学ぶことを目的とする。多様化する社会や家族に目を向け、精神看護が目指す役割、機能について学ぶ。また、精神障害のある人の語りや聞きとる機会をもつことで対象理解を深め、実際に地域生活を営む彼らを支える制度や社会資源の活用、支援のあり方について考える。
	看護実践統合演習	3年次の臨地実習に必要な基礎的看護実践能力の修得を目指し、ロールプレイングを取り入れたグループ学習によって、対象者の状況に応じた看護技術を実践的に学ぶ。基礎的看護実践能力の習得に関しては、OSCE (Objective Structured Clinical Examination: 模擬患者参加による客観的臨床能力試験) によって評価を受け、自己の課題を明らかにする。

看護学科 専門教育科目 概要（令和4年度第1学年適用）

	科目名	概要
3年後期	健康回復支援実習Ⅰ	対象者のセルフケア能力の維持・促進、および自己決定を支える看護を実践的に学ぶ。学生は病院施設において主に成人期の患者を受け持ち、看護過程を活用した援助の考え方を基盤として、主体的に看護実践を行う。
	健康生活支援実習（老年期）	高齢者に対する看護実践を通して、加齢や疾病が生活機能におよぼす影響を理解し、高齢者の自立的な生活を支援する看護の視点と方法、家族支援、多職種協働の重要性を学ぶ。
	健康生活支援実習（こどもと家族）	小児科病棟、障がい児（者）関連施設、小児科外来で実習することにより、様々な健康レベルのこどもとその家族に対する援助を体験し、多職種連携の実際と小児看護の役割を考える。
	健康生活支援実習（母子と家族）	妊娠期・分娩期・産褥期および新生児期から乳幼児期にある対象者とその家族の特性を理解し、対象者の状態に応じた看護活動を学ぶ。
	健康生活支援実習（精神）	精神に障害をもつ人々について、「生活」の観点から理解し、彼らに必要な看護活動を考え、多職種との協働ができる基礎的能力を養うことを目的とする。精神科の病棟において1名の入院患者を受け持ち必要な看護の方向性を導き出す。また、地域生活を営む人々とコミュニケーションを図り、精神障害からの回復（リカバリー）について考える。
	卒業研究Ⅰ	研究の基礎知識および研究倫理について学んだ上で、文献検索法と文献検討の方法、研究課題の明確化と研究課題に応じた研究方法論の選び方、研究計画書と論文の作成方法、研究論文の公表の意義と効果的な発表方法について学ぶ。
3年後期～4年前期	地域包括ケア実習	実習Ⅰ：訪問看護事業所での実習 地域で生活する療養者とその家族の特徴とニーズを理解し、生活の質の維持向上を目指した在宅看護を提供するための基礎を養う。 実習Ⅱ：医療機関の地域連携部門・入退院支援部門での実習 病気や障がいをきっかけに生活の場を移動する療養者とその家族の特徴とニーズを理解し、生活の質の維持向上及びチームケアに必要な継続看護マネジメントを実践する基礎を養う。
4年前期	看護管理論	看護管理論では、医療・看護をとりまく環境をふまえて、社会のニーズに対応した質の高い看護の提供のために、看護実践があるところすべてにおいて必要であるマネジメントの諸機能について学ぶ。これらを通して、看護職に求められる役割と責務について探究する。
	皮膚・排泄ケア	人工肛門、人工膀胱の造設や褥瘡などの創傷及び失禁に伴って生じる問題をアセスメントしてケアするための知識・技術を学習する。
	健康回復支援実習Ⅱ	実践的な実習体験をするために、看護チームの一員として複数の患者を受け持ち、疾患の治療や退院後の生活支援のために必要な看護の調整役割ならびにチーム医療について実践的に学ぶ。
4年後期	多文化看護論	グローバルな視野に基づき、日本国内外において、看護師として異なる文化的背景を持つ人々に対して、文化を考慮した看護の提供ができるようになるための知識・技術・態度について学ぶ。
	公衆衛生学Ⅱ	我が国の高齢者保健・疾病障害統計・精神保健・食品保健・環境保健・産業保健に関し、公衆衛生的・疫学的視点から説明できるようになることを目標とする。また保健統計に関し、計算法を含んだ知識を習得する。保健統計で使われる諸手法について、説明できること、データを使用した基本的な統計解析ができることを目指す。
	セーフティマネジメント論	セーフティマネジメントは、安全で良質な医療を提供するために必要不可欠である。本講義では、医療提供場面におけるセーフティマネジメントについて、医療安全、感染管理、災害看護、の側面から学修する。
	人々の暮らしを支援する実習	人々の望む暮らしの継続とQOLの維持・向上を目指し、環境や人々のニーズに応じた具体的な看護実践を学ぶ。また、地域包括ケアシステムにおける多機関・多職種との連携の在り方や看護の役割を実践的に学ぶ。
	看護総合講義	看護学の集大成の科目である。これまでの学修を振り返り、自己の学修成果の確認のために、看護学に関する基礎および専門分野を総合的に学修する。
4年通年	卒業研究Ⅱ	卒業研究Ⅰでの学びを基盤として、研究する上で不可欠な文献クリティークの方法を学ぶ。そのうえで、既習の諸学を通して得た知識を活用しながら看護実践を研究的視点で捉え、研究テーマに発展させる力を養うために、研究計画書の作成までの過程を学ぶ。